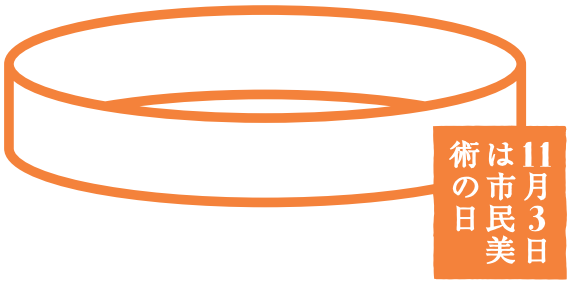
市民美術の日　オープンまるびぃ2022

2022年11月3日（木・祝）

オープン
まるびぃ



11月3日は市民美術の日　オープンまるびぃ
金沢市民は美術館主催展覧会が無料
アートにふれ、アートを楽しむ、市民のための特別な1日

イベント名	市民美術の日　オープンまるびぃ2022
日時	2022年11月3日（木・祝）9:00〜22:00（展覧会ゾーンは10:00〜18:00、最終入場は17:30まで）、市民専用鑑賞券の発券は17:30まで
会場	金沢21世紀美術館
料金	プログラムにより異なる （金沢市民・富山市民は当館主催展覧会の観覧が無料／運転免許証などの在住証明書要）
主催	金沢21世紀美術館［（公財）金沢芸術創造財団］
後援	北國新聞社、北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、北陸朝日放送、エフエム石川
お問合せ	金沢21世紀美術館交流課　TEL076-220-2811（10:00〜18:00 ※月曜を除く）

本資料に関するお問合せ　金沢21世紀美術館　広報担当：石川、落合　事業担当：森、髙木、西出、齊藤
〒920-8509　金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814　FAX 076-220-2802
https://www.kanazawa21.jp　E-mail: press@kanazawa21.jp

概要

金沢21世紀美術館では、金沢市が定めた毎年11月3日の「市民美術の日」に、市民の皆さんがより美術に親しみ、豊かな心を育むよう、主催展覧会を無料でご覧いただける機会を設けています。また、まるいびじゅつかん＝「まるびぃ」がより開かれていくよう、この日は「オープンまるびぃ」と題して市民の皆さんが美術館を楽しみ、様々な人と交流する1日となります。11月3日の市民美術の日を金沢21世紀美術館で過ごしませんか？

市民カウンターにて受付

金沢市民・富山市民の方はチケット販売の列に並ばずに、市民専用カウンターにて市民専用鑑賞券をお渡しします。本人確認書類（免許証・保険証・住民票など住所の確認できる公的書類）をお持ちください。

1

2

当日、オリジナルバッグをプレゼント!

（先着800名、なくなり次第終了）

プログラム

美術館主催展覧会が無料

金沢市民・富山市民の方は、市民専用鑑賞券にて、特別展「時を超えるイヴ・クラインの想像力―不確かさと非物質的なるもの」及び「コレクション展2 Sea Lane ―島々への接続」を無料でご覧いただけます。

金沢21世紀美術館アートバス市内循環ツアー
「タブレットとマーブルの金沢うためぐり」

コレクション作家の毛利悠子が企画・制作する、放送プログラムに耳を傾け地域を再発見する回遊型のプロジェクト作品です。美術館が運行する、昨年リニューアルしたばかりのアートバスにて、金沢市内の隠れた名所を巡ります。音楽やスポーツ、歴史とジャンルを横断するトークと情緒溢れる歌謡曲を聴きながら、街や時代の記憶や変化を味わい、金沢を普段とは一味違った角度からご体感いただけるバスツアーです。

ディスクジョッキー：タブレット純（ムード歌謡歌手・芸人）、湯浅学（音楽評論家）
巡回予定地（美術館発着）：星稜高校グラウンド、卯辰山相撲場、チカモリ遺跡公園、金沢蓄音器館　ほか
美術館出発時間：10:00〜 / 13:30〜
所用時間：約2時間15分程
定員：各回20名程度（事前申込優先）　※定員に達したため申込終了
※バス車内モニターに音声プログラムの手話通訳動画あり

3

毛利悠子（もうり ゆうこ）

1980年、神奈川県生まれ、東京在住。構築へのアプローチではなく、環境などの諸条件によって変化してゆく「事象」に焦点を当てた彫刻や立体物を制作。主な個展に、「SP.」Ginza Sony Park（2020）、「Voluta」カムデン・アーツ・センター（ロンドン、2018）、「ただし抵抗はあるものとする」十和田市現代美術館（2018）ほか、数々の国際展およびグループ展に参加。日産アートアワードグランプリ（2015）、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞（2017）など受賞多数。

4
photo：新津保建秀

コレクション作家 毛利悠子 特別展示

アートバス市内循環ツアー「タブレットとマーブルの金沢うためぐり」の企画に併せ、美術家毛利悠子による作品《copula》（当館コレクション）および新作《Decomposition》を特別展示します。

展示会場：キッズスタジオ、交流ゾーン

《copula》（当館コレクション作品）について

中央の２つのスプーンの接触が起点となり、車輪が動き、ランプが明滅し、足元の毛ばたきが動き出す。パイプの形状は、螺旋階段、巻貝、コイルといった渦や螺旋にまつわる様々なエネルギーや永遠性を想起させる。タイトルの「copula」が、もともとはラテン語で「連結」の意味を表しているように、本作品はオブジェとオブジェ、鑑賞者と作品、作品と周囲の環境など様々な要素が見えない力で繋がり、これらの関係性が視覚化されることで鑑賞者に新たな気づきを与え、私たちが生きている世界のあらゆる関係について目をむけることを意識させる。

展示会場：キッズスタジオ

5

毛利悠子《copula》（2020年）
鉄、ケーブル、モーター、スプーン、磁石、自転車のホイール、電球、毛ばたき等
サイズ可変
金沢21世紀美術館蔵
photo: KIOKU Keizo

《Decomposition》について

《Decomposition》は、フルーツの水分などによる抵抗値の変動を利用してシンセサイザーの音程をコントロールすることで、偶然性に満ちた音楽がスピーカーから流れてくる音響彫刻作品。静物としてのフルーツは古来、静物画の題材として使われてきたが、この作品から奏でられるサウンドを聴いていると、フルーツの中に潜んでいた動きが感じられてくる。ぶどうやバナナ、柿といったフルーツがこれまでになかったハーモニーを奏でるオープンエンドな彫刻としても楽しめる。

展示会場：交流ゾーン

6

毛利悠子《Decomposition》（2021-2022年）

ガイドツアー／ミニトーク

キュレーターによる展示室ガイドツアー、当館の建築や恒久展示作品についてのミニトークを行います。

展示室ガイドツアー（事前申込優先/各回30分程度）
開催中の特別展とコレクション展のキュレーターによる展示室ガイドツアーを行います。

①10:30～/14:30～「時を超えるイヴ・クラインの想像力―不確かさと非物質的なるもの」
　トーカー：杭 亦舒、黒沢聖覇（学芸員）
②11:30～/15:30～「コレクション展2 Sea Lane―島々への接続」
　トーカー：野中祐美子（学芸員）

当館の建築や恒久展示作品についてのミニトーク（事前申込優先/30分程度）
キュレーターによる当館の建築コンセプトや特徴、恒久展示作品についてのミニトークを行います。※手話通訳あり

トーカー：原田美緒（学芸員）　時間：13:30～　会場：レクチャーホール

7 2021年度市民美術の日「オープンまるびぃ2021」
キュレーターによる展示室ガイドツアーの様子
特別展「ぎこちない会話への対応策―第三波フェミニズムの視点で」展示風景

8 2021年度市民美術の日「オープンまるびぃ2021」
館長による恒久展示作品ガイドツアーの様子
レアンドロ・エルリッヒ《スイミング・プール》2004

2022年度トークシリーズ「フォーラムアール～これからを話そう」第一弾
「氾濫する映像の中に、自分だけの水脈を見つける
―感覚民族誌の視座から―」

今年度の新企画であるトークシリーズ「フォーラムアール～これからを話そう」の第一弾として、ゲストに映像作家であり文化人類学者の太田光海氏をお招きします。

登壇者：太田光海（映像作家、文化人類学者）
時間：15:00～16:30　定員：120名
料金：無料　会場：シアター21
申込受付：10月3日 当館WEBサイトにて開始

太田光海は、映像やテキストを駆使して主に感覚民族誌を実践する人類学者です。耳慣れない感覚民族誌とは、「他者、そして自らがこの世界において、どこに位置するかを感覚を通して考え、個人的あるいは社会的側面から様々な関係を再考し、繋いでいくこと」と太田は言います。本レクチャーは、グローバルパンデミックの影響で数多くの映像が溢れる現代において、感覚民族誌の視座から“映像”を捉え直し、また“映像”を通して、自らの世界を紡ぎ直すことを目指します。さらに、映像を上映/展示する場でもある美術館の役割とそこから生まれる関係を考えます。

フォーラムアール関連プログラム

太田光海　短編映像作品「Wakan / Soul Is Film」上映会

本トークイベントと合わせ、太田光海による短編映像作品の上映会を行います。本作品は太田の初監督作品『カナルタ 螺旋状の夢』の番外編とも言えます。映画撮影と並行して撮り溜めた本編未使用の映像素材を新たに解釈し、映画には収まり切らないアマゾン熱帯雨林の様々な顔を立ち上がらせます。ぜひトークと合わせてご視聴ください。

上映作品：「Wakan / Soul Is Film」(2021年 22分間)
時間：10時〜14時（本時間中、繰り返し上映いたします）
定員：120名（申し込み不要）
料金：無料
会場：シアター21
※自由席、途中入退場可

『カナルタ 螺旋状の夢』をシネモンドにて上映！

本トークイベント関連企画として、11月5日（土）〜11月11日（金）の期間中、『カナルタ 螺旋状の夢』をシネモンド（香林坊東急スクエア4F）にて上映します。同作品は、エクアドル共和国のアマゾン熱帯雨林で自給自足生活を営む先住民、シュアール族の世界を捉えたドキュメンタリー映画です。構想から7年、現地で1年以上の単身住み込み撮影を行った太田が国際的なクリエイティブ・チームとともに完成させた至極の初監督作品。セバスティアンとパストーラ夫妻を家族の一員のような視点で追い、森や薬草と結ぶ深い関係や、現代医療の導入に起因する社会の変化が起こす様々な矛盾にも迫ります。令和4年度文化庁文化記録映画優秀賞受賞作品。
※詳細はシネモンド（TEL: 076-220-5007）にお問い合わせください。

太田光海（おおた あきみ）

1989年、東京都生まれ。映像作家・文化人類学者。神戸大学国際文化学部、パリ社会科学高等研究院（EHESS）人類学修士課程を経て、マンチェスター大学グラナダ映像人類学センターにて博士号を取得。パリ時代はモロッコやパリ郊外で人類学的調査を行いながら、共同通信パリ支局でカメラマン兼記者として活動した。マンチェスター大学では文化人類学とドキュメンタリー映画を掛け合わせた先端手法を学び、アマゾン熱帯雨林での1年間の調査と滞在撮影を経て、初監督作品『カナルタ 螺旋状の夢』を発表。個展に「Wakan / Soul Is Film」(The 5th Floor、2021年)、芸術祭「ATAMI ART GRANT」に参加（熱海、2021年）。

photo: Jun Yokoyama

アート・ライブラリー・プログラム

子どもや大人を対象とした絵本の読み聞かせ会を行います。読み聞かせの後、作品鑑賞を兼ねた館内ツアーを実施します。併せてお楽しみください。

● 絵本を読もう　毛利悠子 特別展示とともに
時間：11:00〜11:40
対象：子どもからおとなまで（幼児は保護者同伴）
定員：先着4組
読み手：小孫ちさと（ライブラリアン）　作品案内：木村健（エデュケーター）

● 1ページ・サロン　コレクション展「Sea Lane」とともに
時間：16:45〜17:25
対象：小学生からおとなまで
定員：先着4組
読み手：大西洋子（ライブラリアン）　作品案内：野中祐美子（学芸員）

10

SCAN THE WORLD［BONUS STAGE：OPEN MARUBIXI］

「アペルト17 SCAN THE WORLD」石毛健太（1994年、東京都生まれ）とBIEN（1993年、東京都生まれ）の2名のアーティストを中心に、街をスキャニングするプロジェクトであるSCAN THE WORLDの関連イベントを開催します。本イベントでは、昼とは違った表情をみせる夜のまちに繰り出します。路上表現の一つであり、新たな遊びの実践でもあるSCAN THE WORLDの世界に、アーティストとともに足を踏み入れてみませんか。

時間：18:30 〜 20:00（予定）
受付時間：17:00〜（当日受付、先着順）
定員：10名程度
受付場所：金沢21世紀美術館 長期インスタレーションルーム
場所：金沢21世紀美術館近隣

11

《SCAN THE WORLD [STAGE: COLLECTIVE BEHAVIOR] 》2018
photo by たまえ

広報用画像

画像1〜11を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、広報課へお申し込みください。

画像お申し込みフォーム ▶ https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。